受付番号　第 *2023042* 号

承認日：2024 年 2 月 29 日

研究概要

1.　研究名称 または課題名テーマ等

血液透析患者におけるリン吸着剤の種類と脆弱骨折との関連についての後ろ向き調査

2.　研究責任者(当院)

所属：　腎臓内科

氏名：藤井隆之

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし

代表名：

3.　分担研究者

所属：腎臓内科

氏名：面大地、越坂純也、山内伸章、松永宇広、森本真有、田中宏明、寺崎紀子、鈴木　理志

4.　研究対象者

2004 年 03 月 01 日～2023 年 3 月 31 日の間に聖隷佐倉市民病院の間に当院で血液透析を開始し外来透析を行い、少なくとも 3 ヶ月以上観察可能であった末期腎不全患者

5.　研究の必要性

透析患者の高齢化は年々進行しており、約 70%は 65 歳以上、約 35%が 75 歳以上の超高齢者となっている。特に、近年問題となっているのが大腿骨近位部骨折や脊椎圧迫骨折等の脆弱骨折であり、一度骨折すると著しく生活の質が低下する。特に透析患者では、一般人口に比べて約 4 倍大腿骨近位部骨折リスクが高いことが報告されており、骨折後の再入院および死亡リスクは各々4 倍、3.7 倍と報告されている。透析と骨折の関連については、高齢化に伴う骨密度低下を主体とする骨粗鬆症の要因もあるが、以前から透析患者の骨病変に関しては、尿毒症物質に加えて、カルシウム、リン値に伴って変動する二次性副甲状腺機能亢進症との関連が指摘されている。特に透析患者においてはリンの尿からの排泄が低下することにより、高リン血症を呈することが多く、カルシウム・リン積の上昇などから血管石灰化を介して心血管合併症、生命予後が悪化することが報告されている。高リン血症の治療は、生命予後の観点からリン吸着剤の使用の重要性と、非カルシウム含有リン吸着剤のカルシウム含有リン吸着剤に対する優位性が報告されていたが、最近の本邦からの報告では両者に生命予後の差はないとも報告されている。一方、骨折に関しては、リン吸着剤の使用の有無やリン吸着剤の種類による骨折との関連の報告はあまり報告されていない。

今回、我々は、当院で 2004 年 3 月から少なくとも 3 ヶ月以上当院に通院した血液透析患者に対して、リン吸着剤の有無や種類（カルシウム含有リン吸着剤か非カルシウム含有リン吸着剤）と骨折との関連性を明らかにすることで、将来的には、骨折予防観点からのリン吸着剤の選択に役立つことが期待される。

6.　研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

本研究は後方視的研究であり、参加個人への影響はありませんが、ますます高齢化している透析患者さんの骨折への対策の一助になることが予想されます。

7.　対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151

担当者氏名：藤井隆之

対 応 時 間：9：00～17：00

共同研究において専用窓口がある場合

なし